

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ實情ヲモトメテ得
第六十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス
第六十三條 各稅務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク
一 所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス
二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道委員ニ在リテハ四人
所得審査委員會ハ審査委員及其ノ補員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十四條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス
第六十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルキハ此ノ限ニ在ラズ
所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第六十六條 前條第一項ノ請求アリタルキハ政府ハ所得金額ヲ查驗シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルキハ之ヲ更訂ス
第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス
第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニテ政府ニ納ムルヘシ
第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額四分ノ一ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

ヲ爲サズニ本法施行地外ニ住所アリ居所ヲ移シキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得
第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限
第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限
第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收セキ所得稅ヲ徵收セザルキハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條規定ニ依リ徵收セザル稅金ヲ納付セシメ殘餘財產ヲ分配シタルキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス
第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得
第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルキハ政府ハ納稅義務者ノ住所以外ニ住所アリ居所地以外ニ於テ所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ
第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所ニ在リキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得
本法施行地ニ在リ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スシ申告ナキ者ハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス
第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得ノ申告ノ納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所アリ居所ヲ移サズルトキキ亦同シ
第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ逃脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第一項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス
第七十五條 正當ノ事由ニテ第五十六條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂證書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂證書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂證書ヲ付第五十六條第二項ノ規定ニ依リ金額ヲ交付セズ
第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事タル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ニテ洩洩シタルキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十七條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法第三十八條第三項但書第三十九條第二項 第四十條 第四十一條 第四十八條 第二項 第六十三條 第六十六條ノ例ヲ用共但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附則
第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
第七十九條 所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ
實與又ハ實與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第二種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前於テ收入金額ニ限リ銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利息ニ付テハ支拂期ノ本法施行前アルモノニ限リ大正九年分第三種所得トシテ計算ス
第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得

得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セズ
第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限リ本稅ノ三割五分ヲ増徴ス
大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルキハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付テハ本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ三割五分ヲ増徴ス
第八十二條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス
從前ノ規定ニ依リ所得調査委員補員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス
第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限リ第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス
第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セズ

法律第十三號
明治四十年法律第二十一號中左ノ通改正ス
第一條 第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
四 所得稅
附則
本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(參照)
明治四十年七月三十一日法律第二十一號改正稅法條
第一條 榷木ニ於ケル稅收ハ左ノ目ニ從テ徵收ス
一 戶數稅
二 營業稅
三 雜稅

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾 酒造稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
大正九年七月三十一日
內閣總理大臣 原 敬
大藏大臣 男爵高橋是清

法律第十四號
酒造稅法中左ノ通改正ス
第一條ノ五第二項ヲ左ノ如ク改ム
左ニ掲ケルモノハ味淋ト看做ス
一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ
二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノノ粕濾シタルモノ
第一條ノ六中若ハ甘藷ヲ甘藷若ハ味淋粕ニ改ム
第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム
酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス
第一種 酒精分二十三次度以下ノ啤酒
一石ニ付三十圓
第二種 酒精分二十三次度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎
一石ニ付三十三圓
第三種 酒精分三十度ヲ超ス四十五度以下ノ燒酎
一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓二十五錢ヲ加ヘタル金額
第四種 酒精分二十三次度ヲ超ユル清酒濁酒白酒酒酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎
一石ニ付酒精分二度毎ニ一圓五十錢

第 2399 号 物價号外

